

栗山地域まちづくり懇話会

日 時：令和元年 6 月 30 日（日）10:00～

場 所：栗山庁舎

テーマ：安心して住み続けられる地域づくり

[対応方針・対応状況]

① 地域外への交通手段の確保について

〈参加者の発言要旨〉

運転免許証を返納した高齢者が、通院や買い物などに出かけるために市営バスを利用することは、運行時間の関係で難しい部分があります。また、タクシーでは時間や料金がかかり利用しづらいため、高齢者を無料か低料金で送迎する福祉タクシーのようなボランティア組織が出来ないでしょうか。

〈市側の発言要旨〉

高齢者の運転免許証返納の増加に伴い、交通弱者も増えることが考えられます。単に住民の足の確保をするだけでなく、地域における互助、共助の仕組みづくりや地域振興への支援みたいなものを検討したいと思っています。

◇対応方針・対応状況

市では、今後も少子高齢化が進む中、地域の足だけでなく、日常生活全般において、住民同士の互助の必要性が高まると考えています。

このような中、地域の足の問題を解決する手法の 1 つに、地域住民の助け合い（互助）によるものがあります。これは、地域の困っている人（依頼者）と助けてあげられる人（サポーター）とを繋ぐ取り組みです。

市内でも、既に自治会や住民主導で、地区独自の互助の仕組みを構築しているところもありますので、そのような事例も参考に今後、検討を進めていきます。

② 介護支援等について

〈参加者の発言要旨〉

高齢になっても安心して自宅で生活するためにも介護保険の家事支援、料理支援、また、生活習慣病の予防、重症化予防のための健康づくりなど、他の地域

のように必要な支援の体制づくりや環境づくりが必要だと思えます。

〈市側の発言要旨〉

生活支援サービス、介護保険サービスなど必要なサービスは今後提供できるよう検討いたします。また、健康づくりのための介護ボランティアなどについては、介護保険施設だけでなくオアシスなどに事業を広げていくことを今後検討していきたいと思えます。

◇対応方針・対応状況

市は、栗山、西川にデイサービスセンターを設置するほか、訪問介護を行う藤原地域に所在する事業所への財政支援を行っています。介護保険以外では、市がシルバー人材センターに委託し実施している「暮らしのお手伝い」事業で、高齢者の話し相手や安否確認を行うなど、市民税非課税の方が安価な料金で依頼できるサービスもあります。

また、若い世代に対する生活習慣病の発病予防・重症化予防対策として、自分の生活習慣を振り返る機会を設けた健康教室、その際に健康マイレージ事業を紹介し、健康づくりを継続的に取り組む働きかけを行っています。

③医療ネットシステムの導入について

〈参加者の発言要旨〉

総合病院や専門病院の医療が「栗山地域の診療所」でも可能となる医療ネットシステムの導入ができませんでしょうか。

〈市側の発言要旨〉

緊急医療について、現在受入れは市内4病院で輪番制を決めて受入れを行っています。人口が減少する中で、緊急医療体制の維持確保をしていくことはなかなか難しいところがあり、今後この体制を維持していくためにも、各病院から集まってできた地域医療連携推進法人を立ち上げました。その中で、今後緊急体制についても将来的なものとして検討していきたいと思えます。

◇対応方針・対応状況

病院群輪番制病院となっています。今市病院、川上病院、獨協日光医療センター、日光市民病院の4病院には、休日及び夜間の重症患者の受入れを行っていたり、市から運営費への支援を行っています。

地域医療連携推進法人では、現在、関係機関により構成する4つのワーキンググループを設置し、それぞれの課題である「病院横断的入退院調整機能の整備」「地域医療連携クリティカルパスの導入・拡充」「介護施設への患者紹介」「医療機器の共同利用」について、検討を始めているところです。

救急医療体制につきましても、大きな課題として捉えており、今後、検討を行っていきます。

④ 地域資源の活用について

〈参加者の発言要旨〉

将来的に持続する地域をつくるためには、地域で仕事を生み出し収入を確保することが重要になっています。「栗山地域だけにあるもの」を前面に発信し、それをうまく活かすことで地域に人々を呼び込む。そのための勉強会や検討会を行い、地域に安定した収益事業などを生み出すことが必要だと思えます。

〈市側の発言要旨〉

機構改革により、商工業、観光業、農林漁業が連携できる組織体制になりましたので、地域の皆さんがこんなことをしたい、あんなことを開発したい、これをどうしたらいいかということを一連でお手伝いができると思います。

市全体で考えていくと、働き手が不足している状態でありながら、企業を誘致の要望などもありますので、研究しながら進めていきたいと思っています。

また、森林環境譲与税という制度のもと、日光の森林をどのように有効に使っていくかという検討にも入るところです。

◇ 対応方針・対応状況

農業の持続・発展による農村地域の活性化を目的として策定した「日光市農業成長戦略計画」において、地域資源の活用を主要な戦略として位置付けております。具体的には、農村部に対する観光需要を喚起し観光客を呼び込むため、直売所や観光農園、地域独自の伝統文化や景観等、地域資源の掘り起しに取り組んでおります。また、収集した情報を整理し、インターネットによる発信、マップ化、農村回遊のモデルコースの提案等を行い、観光業等他の産業や地域の方々との連携を図りながら、活性化に取り組んでいきます。

栗山地域においては、交通アクセスなどの問題から企業等の新たな進出は難しい状況にあります。このような状況を踏まえ、地域資源を活用した企業等の誘

致や、サテライトオフィスとしての誘致の可能性について研究させていただきます。

森林環境譲与税につきましては、森林経営管理法の施行に伴い、令和元年度から市町村が主体となって森林の経営管理を行う、森林経営管理制度が開始され、その財源として創設されました。当市では、所有者自らによる経営管理が難しい森林を預かり、経営が成り立つ人工林は民間の事業体に経営管理を委託し、経営が成り立たない人工林は市が管理を行う「森林経営管理事業」に対し優先的に充当していくことを想定しています。今後、地域や関係機関等と連携を図りながら、栗山地域の実情を十分に踏まえたうえで、幅広く検討していきたいと考えています。

⑤子育て世帯への支援について

〈参加者の発言要旨〉

子育て世代においては、高校進学と共に通えないところもあるため、家族で栗山地域から引っ越してしまうケースあります。一度出てしまうと市街地での生活の便利さからか、なかなか地元に戻ることが少なくなっています。寮など子供を安心して預けられるところがあれば家族で出て行かなくて済むのではないのでしょうか。

〈市側の発言要旨〉

寮のように経営してくださる方の確保がまず大事な話なので、その辺は非常に厳しいのですが、情報収集はしてみたいと思います。状況としては、非常に難しい課題であると考えています。ただ、言われていることはよく理解できるのですが、根本的な解決が見出せないというのが現状です。

◇対応方針・対応状況

高等学校への進学を機に、家族が地元を離れてしまうという件につきましては、遠距離を通学する手段の確保や学校周辺に一時的に居を構える環境不足など、様々な要因があるものと考えます。根本的な解決策を見出すことは非常に難しい課題ですが、各家庭においても、多種多様な事情を抱えているかと思しますので、それらを把握したうえで、市としてどのような支援ができるのか検討していきたいと思っております。

⑥ 鬼怒沼へのアクセスの向上について

〈参加者の発言要旨〉

鬼怒沼は栗山地域の貴重な観光資源の一つです。女夫淵からのアクセスが不便であるので日帰りの観光客の誘致に課題を抱えています。女夫淵の駐車場から日光沢までを車での送迎を有料で行えると日帰りのハイカーが増え、送迎による雇用もできると思います。また、登山者に協力金を呼びかけ、トイレや歩道の整備をおこない鬼怒沼の環境保護に努めることも必要と考えます。

〈市側の発言要旨〉

奥鬼怒林道を改めて観光用として車を走らせるには、難しい問題が多々あるように思います。利便性が良くなれば日帰り客が増えますが、エリア内の旅館等にとっては厳しいところもあります。地元の皆さんから開けていただきたいとの要望があれば国などにお話しできるかもしれませんが、クリアする問題がたくさんあると思いますので今後の研究とさせていただきます。

◇対応方針・対応状況

観光用道路として利用するには多くの課題があり、直ぐに利用できるという状況ではありません。また、民間による送迎バスやタクシーの運行については、国土交通省の運行許可や、環境省の利用許可が必要であり、地元である奥鬼怒四旅館との調整も必要となります。総合的に判断すると、クリアしなければならない課題が多く、実現は難しいと考えます。

また、登山者からの協力金による鬼怒沼の環境保護については、先例地での取り組みについて調査、検討するとともに、奥鬼怒歩道の管理者である栃木県林務部に、歩道整備や環境保護について働きかけていきます。